

ポストコロナの伊豆の国市の新しい旅行スタイル

日本大学 国際関係学部 矢嶋ゼミナール

指導教員：准教授 矢嶋敏朗

参加学生：礒貝彩美、遠藤未理、河島響、
菅野綾音、久保澄香、島田壺圭、
杉山萌、鈴木ふうな、武山桃菜、
新阜淳、服部桜子、松尾凌平、
松下静那、宮崎凌、吉田真人

1 要約

伊豆の国市では、各種観光補助金を積極的に活用、観光周遊バス実証運行や電動シェアサイクルの導入を開始するなど、2次交通の利用促進への期待が高まっている。実際に伊豆の国市でフィールドワークすることにより、2次交通である周遊バスとシェアサイクルを利用、交通手段としての利便性をゼミで考察した。伊豆長岡温泉の地域行事である「温泉場お散歩市」（毎月第2日曜日開催）に毎回参加し、地域住民へのインタビューを通して伊豆長岡の観光の現状に関する理解を深め、伊豆の国市の2次交通を中心とする観光の現状や課題と今後の解決策を議論した。また、地域や自治体、民間事業者が連携してつくるエリアプラットフォーム（会議体）として設立された「伊豆長岡温泉ミライ会議」が実施する、全国の大学生や地域関係者が集う「伊豆長岡温泉ミライ大学」で、伊豆長岡地域の観光及び2次交通の課題と利用促進のための提言を行った。さらに、温泉駅（伊豆長岡温泉バスターミナル）などでのコンシェルジュ活動開始や使用するのぼり旗と法被の作成、2次交通の効果的な活用法であるシェアサイクルと周遊ルートを利用したルート案の作成も行った。

バスデザイン案の正式決定やコンシェルジュ活動実施など、「伊豆の国市の新しい旅行スタイル」を研究テーマに、今後も継続的に研究を行っていく。

2 研究の目的

近年、2次交通産業（バスやタクシー等）は、旅行に対するニーズや志向の個人化に加えて新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から利用客が減少したことにより、大きな打撃を受けている。昨年からは伊豆の国市と伊豆箱根バス株式会社などが連携し、観光周遊バス実証運行を開始し、シェアサイクルも導入している。

本研究では、2次交通に着目し、1. バスデザインの作成、2. 伊豆長岡温泉地区でのコンシェルジュ活動の2つの方向性から、伊豆の国市における2次交通産業の利用促進を目的とし、有効な活用方法を提言することとした。

3 研究の内容

【3-1】バスデザイン班

コロナ禍で利用客が減少傾向にある観光客のバスの利用を促進するために、「伊豆長岡地域の2次交通の課題点」の研究を行った。11月21日に実施したフィールドワークでは、伊豆箱根バスが伊豆の国市の助成を受け運行する、主に観光者向けに運行される「歴バスのる〜ら」を視察した。このバスは、従前から週末を中心に運行されている。実際に乗車したことで「歴バスのる〜ら」の利用客数が低迷し且つコースやダイヤ等利便性も高くなく、2次交通としての役割を果たしきれていないことを実感した。その対応のため、「バスのデザイン性」をこの現状を打破する解決策の最初のステップとして考え、活動の最終目標を「伊豆長岡地域を盛り上げるバスのデザインの完成！」として決定した。その後、どのようなデザインが伊豆長岡地域に適しているかゼミナール活動で議論を通し、全国の話題性のあるバスのデザインを参考に、比較検討を行った。また、伊豆長岡温泉地区の活性化を推進する、一般社団法人伊豆長岡温泉エリアマネジメントの方々と定期的に会議を通して、伊豆長岡地域の2次交通について今後の展望を加味した議論を行った。

【3-2】コンシェルジュ班

前述のように、伊豆長岡地域の2次交通の現状と地域の様子を実際に視察し、2次交通と観光客を繋ぐ存在の必要性があるという結論に至った。対応するため、伊豆長岡地域の2次交通を観光資源の架け橋とすべく「コンシェルジュ活動」を行うことで、伊豆長岡地域の2次交通の利用促進を目標とした。

11月14日に参加した「温泉場お散歩市」では、地域の方や出展者の方から積極的にお話を伺い、伊豆長岡地域の観光面の現状を理解した。11月21日には、主に各観光資源へのアクセスやバスを中心とした交通手段の利便性と課題、12月5日には、主にシェアサイクルを中心とした交通手段の利便性についてフィールド枠により考察した。参加学生から集計を取り、2次交通を利用した“お勧めルート案”の厳選と提案を行った。また、伊豆長岡温泉の旅館経営に携わる方々からヒアリングを行い、経営者や住民の視点から今後の伊豆長岡地域の在り方について学んだ。

また、コンシェルジュ活動の準備を進めていく過程で、2次交通の話題性を高め、利用客数を増やす目的として法被とのぼり旗を制作した。

4 研究の成果

【4-1】バスデザイン班

フィールドワークを通して、伊豆長岡地域の2次交通の利用客の低迷傾向となる原因の1つが運行している観光周遊バス「歴バスのる〜ら」のデザインの話題性に欠けるという点であった。そこで、バスデザインの比較検討を行った結果、主張すべき対象を厳選し、中心に大きく配置することでメッセージ性とインパクトを兼ね備えたデザインとなり、観光客の

乗車動機に繋がることが判明した。さらに、インパクトのあるデザインにより、伊豆の国市住民への観光に対する意識を高められるとも考えた。

バスのデザインが観光に与える影響の強さと必要性と実現に向けての課題を、伊豆長岡ミライ大学にて提言を行った。バスデザインの決定や運行開始には及ばなかったが、周遊バスと上述の電動自転車を融合したモデルコースを提言し「いずのくに観光周遊」HP では公開を開始している。今後は、バスデザイン案の正式決定と運行に向けて活動していく予定である。

【4-2】 コンシェルジュ班

コンシェルジュ活動を開始するにあたって、顧客（観光客）への対応時の課題である知識やマナーなどの必要性について伊豆長岡温泉ミライ大学にて発表を行った。伊豆の国市に2次交通を利用して訪れたお客様に的確な情報を提供できるように、温泉駅などでのコンシェルジュ活動を継続していく。

また、上記【4-1】バスデザイン班でも言及している「周遊ルート案」については、コンシェルジュの立場からも、前述の通り研究参加学生がルート案を作成し厳選を行った。これは、一般社団法人伊豆長岡温泉エリアマネジメントを中心とした方々に協力を依頼したことにより実現したものであることを付け加える。

5 地域への提言

【5-1】 バスデザイン班

フィールドワーク時にゼミ生から多く出た伊豆長岡地域の2次交通の課題点を、伊豆長岡温泉ミライ会議などで提言した。具体的な内容としては、「バス停の位置が分かりにくい」「道幅が狭く危険である」「バスの本数が少ない」「バスのデザイン性を改善すべき」等が挙げられる。

【5-2】 コンシェルジュ班

11月21日並びに12月5日のフィールドワーク、そして11月14日に参加した「温泉場お散歩市」を踏まえ、それぞれの課題や改善点を整理し、12月6日の伊豆長岡温泉ミライ大学で意見提言を行った。具体的には「シェアサイクルを初めて使用されるお客様向けに無料での練習場所を作ること」「実際に観光客が利用される際に歩道を走行してよいか」「地図に休憩所の箇所を明記する等の付加情報の追加」等の提言を行った。

また、周遊ルート案も地域への提言として挙げられ、伊豆の国市の観光に関する現状や課題を理解し、今後の改善策として韮山反射炉等歴史的観光地を中心としたルートや、人気観光スポット伊豆パノラマパーク等アクティビティを中心とした周遊ルート案の提言を行った。

6. 地域からの評価

【6-1】バスデザイン班

地域への提言を行った際、「若い感性を取り入れる事は良い事である」「自分達にはなかった新しい考えを知る事ができた」「すぐにでも取り入れたい要素があった」との評価を頂いた。(一般社団法人 伊豆長岡温泉エリアマネジメント：今井裕久様)

【6-2】コンシェルジュ班

「実際に何度も現地に足を運び、現地の様々な箇所でお話を聞いている姿を見て、知識を豊富にして失敗を恐れず挑んで欲しいという」意見を頂いた。また、「コンシェルジュ活動を行うにあたって、講習会等への参加などという積極的な姿勢を持って取り組んで欲しい」という意見も頂いた。(一般社団法人 伊豆長岡温泉エリアマネジメント：今井裕久様)

<写真>



歴史バスのる〜ら



道の駅ヒアリング中



電動自転車



登りと法被